令和3年2月26日

学校関係者評価資料

根拠項目	項目	自己評価			学校関係者評価
		分析　目標	方策	重要度	学校関係者評価
生徒㉒ 保護者①	学校は好きですか	昨年よりも0.04ポイント減少。わからないが３％上昇。3年生以外は3以下となる。一番高くなってほしいと願う項目であるがなぜ取り組みをしていても上がらないのか検証が必要。 **→生徒㉒、保護者①を3.2以上の評価を目指す**	今以上にいじめやトラブルなどの問題の解消に組織的にそして迅速に取り組む。また、学習面の取り組みや自己肯定感を高めること将来への夢、目標をもたせることなどさまざま取り組みに力入れる。「だれでもおしゃべり相談」の周知にも力を入れる。	A　次年度取り組み評価を上げる	自己評価に同じ
生徒⑳ 保護者⑲ 教員⑲	家庭学習について	２，３年生で3以上となる。昨年よりも0.３０ポイント上昇。しかし、「学びのススメ」の活用ができていないため、活用を図った家庭学習の取り組みの充実を目指す。 **→学びのススメの活用を保護者・生徒・教員ともに3.0以上の評価を目指す**	「学びのススメ」を授業開きの際や、学期はじめなどで教科や学年でも積極的に活用を図り、生徒の意識を高めていく。	A　次年度取り組み評価を上げる	自己評価に同じ
生徒①②	学習面の課題	生徒の学習面に関して「活動を取り入れた授業」や「ＩＣＴの活用について」の項目に比べ「ねらいが明確な授業」、「自主的・自発的な学習の工夫」についての項目の評価が低くなっている。 **→生徒①、②を3.3以上の評価を目指す**	毎時間のめあてを明確にし、授業の最後に確認を行う、個別指導の時間を増やすなどの授業方法の改善を行う。また、考えをもたせ発表する機会を増やす。地域未来塾の活用を図る。	A　次年度取り組み評価を上げる	自己評価に同じ
生徒⑦⑫⑬	いじめや相談等の対応について	教員は取り組んでいるが生徒との認識の差が大きい。 **→生徒⑦⑫⑬を３．３以上の評価を目指す**	集会等で取り組んでいることを説明したり、啓発したりするような講話を行う。また学校だよりや学年だよりでも記事として取り上げていく。	A　次年度取り組み評価を上げる	自己評価に同じ

生徒⑯	タブレット端末やオンライン活用の推進	1月に導入されたタブレット端末の活用がまだ十分になされていない。今後有効活用に取り組んでいきたい。 **→この項目を3.2以上の評価を目指す**	校内で研修する機会を増やし、教員のスキル向上を図る。	A　次年度取り組み評価を上げる	自己評価に同じ
保護者②⑤⑦⑧⑨⑩⑪⑲	保護者アンケートで「わからない」項目が多い	昨年度よりも「わからない」という割合は減少しているがそれでも学校としてわかってほしいところがまだよく伝えられていないと思われる。 **→保護者⑦⑧⑨⑩⑪の「わからない」割合が２０％以下を目指す**	学校で取り組んでいることをホームページや学校便りや学年便りなどで特集を組むなどより丁寧に説明をしていく。またそれ以外にＱＲコードの活用など有効な方法があるのか検討をしていく。双方向の発進もできないか検討していく	B　次年度取り組みを行なう	自己評価に同じ
保護者⑯	家庭との連絡	個別の対応は丁寧に行っているがそれが十分伝えることができていない。保護者がどのようなことを求めているかつかめていない。 **→様々な機会を捉え保護者の要望を理解する**	学校で取り組んでいることを学校便りや学年便りなどでより丁寧に説明をしていく。またそれ以外に有効な方法があるのか検討をしていく。	B　次年度取り組みを行なう	自己評価に同じ
保護者⑥	学習の評価について	不明が大きく減少し、生徒の評価では0.35と大きく上昇。各学年3以上の高い評価となった。 **→保護者⑥を今年度以上の評価を目指す**	次年度から4観点から3観点へと変わることもあり、評価については学年のはじめと通知表の配付にあわせてより丁寧に説明を行っていく。	S　目標が達成でき継続して取り組みを行なう	自己評価に同じ
生徒⑰	自分には良いところがあると思いますか	全体的に3以下と低いが昨年度よりわからないが６％減少し、0.28ポイント上昇。この項目と⑱将来の夢、目標の項目では2年生が低くなっていることが気がかり。友達の良いとこ探しなど取り組みを行っていく必要があると感じる。 **→生徒⑰を3.0以上の評価を目指す**	行事等のあとで「よいとこ探し」を行ったり、今年度できなかったボランティア活動などの活動を取り入れていく。	S　目標が達成でき継続して取り組みを行なう	自己評価に同じ
生徒⑱	将来の夢や目標をもっていますか	平均が３を超えて昨年度より0.20ポイント上昇。2年生が2.80と低い。 **→生徒⑱を全学年3.2以上の評価を目指す**	学年はじめやその都度「キャリアパスポート」を活用したり、面談等で確認していくことで生徒の意識を高めていく。	S　目標が達成でき継続して取り組みを行なう	自己評価に同じ